

## 「インフレが世界を新陳代謝させる」

インフレというと、かつては物価が上がって生活が苦しくなるといふ悪いイメージしかありませんでした。世界の政治経済の課題もいかにインフレを克服するかというものでした。しかし、日本は世界で初めてデフレ不況を経験しました。そしてインフレの再

評価が起こったのです。不況はインフレの時だけではなく、デフレの時にも起こるといふ事実を、世界中の誰もなかなか気付かせませんでした。もちろん日本人も日本政府もです。デフレで物価が安定しているのに、なぜ景気が悪いのか、何か変なことが起こっているんじゃないかと迷い、その原理がわかりませんでした。それに解答を出したのがアベノミクスでしたが、最初は日銀も財務省も学者達も、トンデモナイ！と大反対だったのです。

アベノミクスは意図的にインフレを起こすという考えであり、それまでの経済学や金融論の世界では教科書に無い奇抜な考え方でした。日銀も当時は資産を優良化する事が至上命題であり、円高はその最大の成果でもあると考え

ていたのだと思います。しかし円高になっても日本の経済は悪くなるばかりでした。

1990年代に日本経済のバブルが崩壊し、日本中の会社か途方もない借金を背負う事となり、大企業を含めた倒産の嵐が吹き荒れました。政府は銀行に膨大な資金を投入し、莫大な財政出動で日本経済を支えました。その結果、アメリカの大恐慌時代にはGDPが半分になったのに、日本はGDPをほとんど減らさずに乗り切ることが出来ました。政府が莫大な借金を背負う事にはなりませんが、それを、かつてニューヨーク連邦準備銀行時代に南米の金融危機対策を担当していたエコノミスト、リチャード・クー氏は非常に高く評価していました。しかしそれは経済社会の安定と資産の優良化には役立ちましたが、経済は成長しませんでした。

その後、リーマンショックが起きます。サブプライムローン代表とする金融工学を駆使し、景気拡大局面のレバレッジ(てこの力)を生かした金融商品は、商品価値の見かけをこの上なく高めるものでしたが、景気後退によって逆レバレッジがかかり、資産価値がクラッシュしてしまいました。世界的な大不況となりました。その時、米国証券取引委員会は時価会計を停止するという暴挙ともいえる禁じ手を使いました。

資産の時価会計とは、取引が発生して価値が確定していないのに見込みの時価で資産価値を見るもので、景気拡大局面では、会社が保有する株が上がるとその会社自身の株も上がるというように、一つの資産が値上がりすると連動して関連する資産が値上がりしますが、景気後退局面では逆のことが起こります。実は欧米から求められた時価評価を日本が導入した時期がバブル崩壊後間もなくだったために、多くの日本企業が好業績なのに保有する資産が大変低く見積もられ、大きな特別損失が発生して資本欠損状態に陥り、倒産したり外資に買

取られたりしました。バブル崩壊の傷をますます深くえぐることになったのです。第一次小泉内閣の竹中平蔵経済財政政策担当大臣の犯した大罪だと思っています。反対に

アメリカはこの時価会計を最大限活用してサブプライムローン等で大儲けをしていたのです。

それがアメリカは自分の都合が悪くなると、自分が世界に強要してきた会計ルールを一方的に停止したのです。私は早晚投資家による疑念によってその化けの皮が剥がれましたが、そうはならずアメリカやヨーロッパの経済は回復し、実害は微小だった日本だけがまたも不景気にあえぐこととなったのです。日本は金融政策や会計原則を多国間競争の武器として充分に認識できていなかったんだと思います。逆にアメリカは非常に賢く立ち回り、資産の見せ方を変え、投資家マインドをコントロールして景気回復を達成したのです。景気はまさにマインドで変わってしまふということの壮大なドラマを見るようでした。

その後、リーマンショックが起きます。サブプライムローンを代表とする金融工学を駆使し、景気拡大局面のレバレッジ(てこの力)を生かした金融商品は、商品価値の見かけをこの上なく高めるものでしたが、景気後退によって逆レバレッジがかかり、資産価値がクラッシュしてしまいました。世界的な大不況となりました。その時、米国証券取引委員会は時価会計を停止するという暴挙ともいえる禁じ手を使いました。

資産の時価会計とは、取引が発生して価値が確定していないのに見込みの時価で資産価値を見るもので、景気拡大局面では、会社が保有する株が上がるとその会社自身の株も上がるというように、一つの資産が値上がりすると連動して関連する資産が値上がりしますが、景気後退局面では逆のことが起こります。実は欧米から求められた時価評価を日本が導入した時期がバブル崩壊後間もなくだったために、多くの日本企業が好業績なのに保有する資産が大変低く見積もられ、大きな特別損失が発生して資本欠損状態に陥り、倒産したり外資に買

取られたりしました。バブル崩壊の傷をますます深くえぐることになったのです。第一次小泉内閣の竹中平蔵経済財政政策担当大臣の犯した大罪だと思っています。反対に

アメリカはこの時価会計を最大限活用してサブプライムローン等大儲けをしていたのです。

← vol.2に続く

Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あなみ よういち

衆議院議員 穴見陽一 後援会 事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net



デフレは緊縮的なマインドが引き起こす現象だと感じます。パブルというあつものに懲りて、慎ましく爪の先に火を灯すような思いをしながらコツコツ真面目に借金を返してゆく、将来も心配なので貯金をして贅沢をしないという日本人特有の道徳的とも信じられているマインドです。しかしその返済中の借金が手品で作られたまやかしだとして、将来の不安が誇大妄想の産物だとしたら、その道徳的な行動は哀しいほどに愚かなことになってしまいかも知れません。

実はデフレで喜ぶのは賢い金持ちです。不安を煽って庶民に慎ましい暮らしを強いてお金を集め、集まったお金で債権を買ってますます儲ける。借金返済も貯金も銀行にお金を入れるという点では同じことです。自分でお金を使う権利を放棄し、銀行の雀の涙ほどの金利に甘んじて慎ましく暮らすことです。結果国内消費は落ち込んで儲からないため海外の債権をデフレによる円高を背景に安く買って儲ける。お金を持っているだけでも増えてゆく。こんな時代を続ける訳にはいきません。


インフレは運用していないお金を溶かしていきます。お金が動き、円安を進め、株価を高め、仕事を増やし、物価を高め、賃金を高め、経済を拡大させます。既得権が溶けていきながら、新興勢力にチャンスが訪れます。世界は適切なインフレーションの基調の中でこそ適切な新陳代謝と経済拡大が起こるのだと思います。しかし、大切なことはインフレの出発点だと思います。アベノミクスは金融政策でインフレを起こそうとしています。しかし本当はマインドが一番大切です。将来への誇大な不安から国民のマインドが脱却し、前向きで旺盛な生き方を選択する人の群れがインフレのエンジンにならないければ本腰の入った景気回復につながりません。マスコミは世の風潮を左右する権力です。マスコミを中心に日本人の気持ちを励ますことが本当の景気回復につながるはずですが、失敗を恐れ、萎縮しがちな日本人のメンタリティがパブル崩壊をトラウマとしてさらに強まったことが不景気の原因であることに気づいて脱却しなければならぬと思います。

古庄玄知 後援会本部事務所のご案内

公正・公平で思いやりあふれる政治。

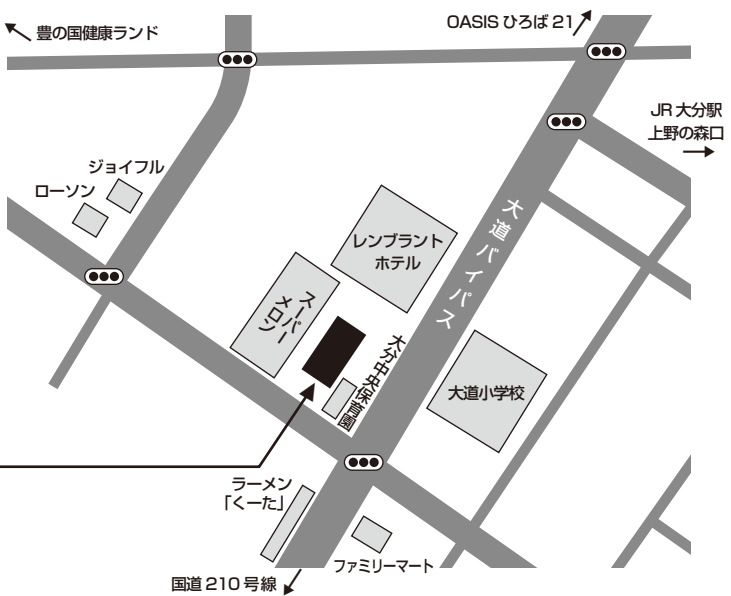
**ごしょう**  
はるとも 古庄 玄知

自由民主党大分県参議院選挙区第二支部長・弁護士



**古庄玄知 後援会本部事務所**

大分市田室町9-33  
TEL097(544)1118  
FAX097(544)1188



Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員 穴見陽一 後援会事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net

